

RETAILER ACADEMY NEWS

Mar 2018 | Bentley Motors Japan



ベントレー東京・土田様

ワインディングでは48Vシステムの電子制御スタビライザーが威力を発揮し、ひらひらとコーナーを駆けていく。2.4トン弱だが従来モデルと比べてあらゆる動きが軽やかだと感じた。急減速してもノーズダイブが少なく挙動が乱れない。ベンティガ以上に安定感が増していると思う。

ベントレー東京・齋藤様

Dynamic Rideによる車両の安定感や、新たに採用されたデュアルクラッチトランスミッションによる進化した軽快な加速などを体験できた。外装や内装の新しいスタイリングはもちろん、車両のスペック的にも確実に以前のコンチネンタルGTからの進化を実際に体感できた。

ベントレー名古屋・老田様

体感的には従来のSpeedモデル以上の性能を感じることができた。特筆すべきは車両の挙動。微入力レンジではダンピングがゆったり取りながらも入力に対して反応が早いので、乗り心地を犠牲にせずクルマが軽くクイックに感じる。大入力レンジでは姿勢変化が少ないので、良い意味で緊張感が少ないと感じた。

ベントレー大阪・田中様

スポーツモードで走行中、スポーツマフラーを装着したような音が出ていた。また、200km/hオーバーからの制動では、10ピストンのブレーキがしっかりと制御してくれるので安心できると感じた。ハンドリングも軽やかで、段差はしなやかに乗り越えるのに、高速走行時にはしっかりとした足回りを体感できた。

ベントレー横浜・鬼頭様

W12エンジンの十分過ぎるトルクを、新採用のデュアルクラッチトランスミッションと組み合わせてスムーズに伝達するレスポンスは非常に心地よいものだった。FR寄りの設定やエンジン搭載位置、クルマの安定感と回頭性、それらを操作するハンドリングのバランスが良かった。

ベントレー福岡・若狭様

特筆したい感想として、ハンドリング性能が飛躍的に向上しているという点がある。アクティブアンチロールバーの効果は同機構を備えるベンティガより強く表れている印象だった。また、従来型よりも各走行モードの特徴・性格の違いが感じやすいという印象を持った。

新型コンチネンタルGTのグローバル研修

参加者が試乗で感じた
このクルマの魅力

ベントレー モーターズは4月19日～20日の2日間、オマーンのマスカット市にあるシャングリ・ラ パール アル ジサ リゾート & スパで新型コンチネンタルGTのグローバル研修を実施しました。この研修の最大の目玉は新型コンチネンタルGTの試乗で、日本から参加した23人のセールスおよびアフターセールスのスタッフの皆様には、このクルマのさまざまな魅力に触れていただきました。ここでは研修後に参加者の皆様から寄せられた試乗の感想と新型コンチネンタルGTのセールスポイントの一部をご紹介します。



ベントレー東京・根市様

低重心でスポーティさを感じさせ、インテリアのダイヤモンドステッチやデュアルベニアのラグジュアリー感、新機能としてのインフォテインメントやメーターパネル、安全システムの追加、最高のパワートレインなど、全てがセールスポイント。最高のクルマに仕上がったと断言できると感じた。

ベントレー東京・鈴木様

大人4人がしっかり乗車できる実用性、十分なスペースを確保した実用性の高いトランク、ドライバー支援機能、マッサーシートなどの快適性、最新のインフォテインメントシステムとローテーションディスプレイなど、ここまでの高級車は他にはないと再認識した。自信を持って販売に臨みたい。

ベントレー神戸・伊藤様

スポーティな走りは競合車と比べてもトップレベルだと感じた。インテリアではクラシックとモダンをミックスさせたベントレー独自の演出が素晴らしく、自信を持ってお客様にお勧めできる。安全装備やインフォテインメントも進化しており、その点も強気でアピールできる。

ベントレー広島・見門様

セールスポイントが盛りだくさんすぎて困るくらい。伝統のクラフトマンシップと最新テクノロジーの融合はどれをとっても自信を持ってお勧めできる。やはり、どこにもない最上級のラグジュアリー感と、ウルトラハイパフォーマンスの両立ができることが、このクルマのセールスポイントであると感じる。

ベントレー横浜・村松様

非常に洗練された内装と、俊敏な動きと快適な操縦性。メルセデス・ベンツやボルシェのオーナーに試乗してもらっても、十分に満足していただけるドライビングを提供できる。それに加えて豪華な内装で、より魅力的なベントレーになったとアピールできると感じた。

ベントレー福岡・清原様

ダイナミックライドによるコーナーの安定性は、もはやスポーツカー。世界でこのクルマにしかないローテーションディスプレイ、サンプルがなく積極的に勧めにくかったコートドジュネーブ、B&OとNaimのプレミアムオーディオなど、単価アップにつながる「見た目以外」のアピールポイントを幅広く学べた。

世界初のフルサイズSUVクーペが登場 ランドローバー・レンジローバー SV クーペ

ランドローバーは、同社のフラッグシップモデル「レンジローバー」をベースにした2ドアSUVモデル、「レンジローバー SV クーペ」をジュネーブ・モーターショーで発表しました。同車は世界初のフルサイズ・ラグジュアリー SUV クーペで、これまでにない新たなカテゴリーの創出となります。

世界限定999台の贅を尽くしたクーペ・モデル

ランドローバーは1970年に初代レンジローバーを誕生させ、自動車業界にラグジュアリー SUVという新たなカテゴリーを誕生させた存在であるのは周知の通り。そして今年3月に発表した「レンジローバー SV クーペ」では、フルサイズ・ラグジュアリー SUV クーペという新しいカテゴリーを世に問うカタチとなりました。

世界限定999台の特別モデルを製作するのは、ジャガー・ランドローバーのハイパフォーマンスモデルを企画・製造する、特別車両部門のSVO（スペシャル・ピークル・オペレーションズ）。顧客が選択した仕様に応じて1台1台手作業にて製作を行うため、レンジローバー史上もっとも贅沢なモデルといえます。

ほぼすべてのボディパネルを一新

最近のラグジュアリー SUVのなかには、4ドアボディはそのままに、Bピラーから後ろのデザインを変更することで「SUVクーペ」を標榜するモデルがあります。しかし、ランドローバーのデザインチームとSVOが製作するこのクーペ・モデルでは、ボンネットとロワー・テールゲートを除くすべてのアルミニウム製エクステリアパネルを一新。真の2ドア・SUVクーペにふさわしい手の込んだつくりとしています。



カタログモデルとは異なる専用デザインを採用したフロントマスク

そしてこのプロポーションの原形は、初代モデルのクラシック・レンジローバーにあり、両者の間には革新的なSUVの血統が受け継がれています。



当初は2ドアのみの設定だったクラシック・レンジローバー



クラシック・レンジローバーとの血統を感じさせる2ドアボディ

顧客が選択できる仕様は多岐にわたります。ボディカラーは、グロスまたはマット仕上げの8色が用意され、オプションでグロス仕上げとなる4種類のデュオトーンも選択可能。また、「SV プレミアム・パレット」と呼ばれる16種類の特別色も設定されています。さらに、SVOが開催する試乗イベントに参加したり、英国のSVOテクニカルセンターを訪問した熱心な顧客については、さらに別のカラーを選択することも可能です。

さまざまなビスポークが可能なインテリア

インテリアもユニークかつラグジュアリーな空間に仕立てられています。最大の特長は、前席と後席を明るい色と落ち着いた色で配色した4種類のデュオトーンが選択できること。これにより前席と後席で対照的な空間が形成され、パーソナルクーペならではの特別感が演出されます。



前席と後席をコントラスト・カラーにすることで、前後を別空間のように演出できるインテリア

シート表皮には特別に選定したセミアニリンレザーを採用。前席はシートヒーター & クーラー付きの20ウェイ電動調整式、後席には10ウェイ電動調整式のシートが奢られています。また、シートも深く沈み込むことでよりリラックスした姿勢が取れるよう、特別に設計されています。



リアドアがないため、ラウンジのような特別感を感じさせるリアコンパートメント

インテリアトリムでは、ウォルナットとシカモアを新しい技法で組み合わせた「Nautica」を含む3種類のベニヤを設定。広範囲にわたって贅沢に使用しています。



「Nautica」ベニヤを贅沢に使ったセンターコンソールにより、4人の乗員は完全に独立した形で着座する

特別モデルにふさわしいパフォーマンス

搭載されるエンジンは、最高出力565ps、最大トルク700Nmを発揮する5.0リッターV8 スーパーチャージド・ガソリンエンジン。0-100km/h加速は5.3秒、最高速度は266km/hと発表されています。また、車高は通常のレンジローバーに比べて8mm低くなり、パフォーマンスとスタイリングとの調和を図っています。

こだわりが細部まで行き届いたこのモデルは、ラグジュアリー SUVの新たな頂点のカタチを具現化したモデルといえるでしょう。

COMPETITORS INFORMATION



ニューモデル フェラーリ・ポルトフィーノ

発表・発売日	2018年2月19日 発表
概要	・ V8ターボエンジンはカリフォルニア Tから40psアップの600psを発揮 ・ リトラクタブル・ハードトップ装備で2ボックスのファストバック・スタイルを実現 ・ 進化したピークル・ダイナミクス
車両価格(税込)	フェラーリ・ポルトフィーノ：25,300,000円
デリバリー開始時期	—



限定車 レクサス LC “Structural Blue”

発表・発売日	2018年4月5日 発売
概要	・ モルフォ蝶の羽から着想を得たボディカラー「ストラクチュラルブルー」を採用 ・ ボディカラーと調和した専用色を含む2種類のインテリアカラーを設定
車両価格(税込)	LC500h “Structural Blue”：15,250,000円 LC500 “Structural Blue”：14,750,000円
デリバリー開始時期	—



ニューモデル ジャガー Eペース

発表・発売日	2018年2月22日 受注開始
概要	・ ジャガー初のコンパクトSUV ・ [F-TYPE]からインスピレーションを得たエクステリアデザイン ・ 2種類のカソリン・エンジンと1種類のディーゼル・エンジンを設定
車両価格(税込)	INGENIUMディーゼル・エンジン搭載モデル：4,510,000円～ INGENIUMガソリン・エンジン搭載モデル：4,750,000円～
デリバリー開始時期	—



ニューモデル メルセデス・ベンツ Eクラス カブリオレ

発表・発売日	2018年1月19日 発表
概要	・ 新型Eクラス クーペをベースにした4シーター・カブリオレ ・ ボディサイズの大型化により、後席の室内空間を向上 ・ 最新の安全運転支援システムを装備
車両価格(税込)	E 200 カブリオレ：7,350,000円 E 200 カブリオレ スポーツ：8,040,000円 E 400 4MATIC カブリオレ スポーツ：11,130,000円
デリバリー開始時期	—



ニューモデル メルセデス・ベンツ S 450

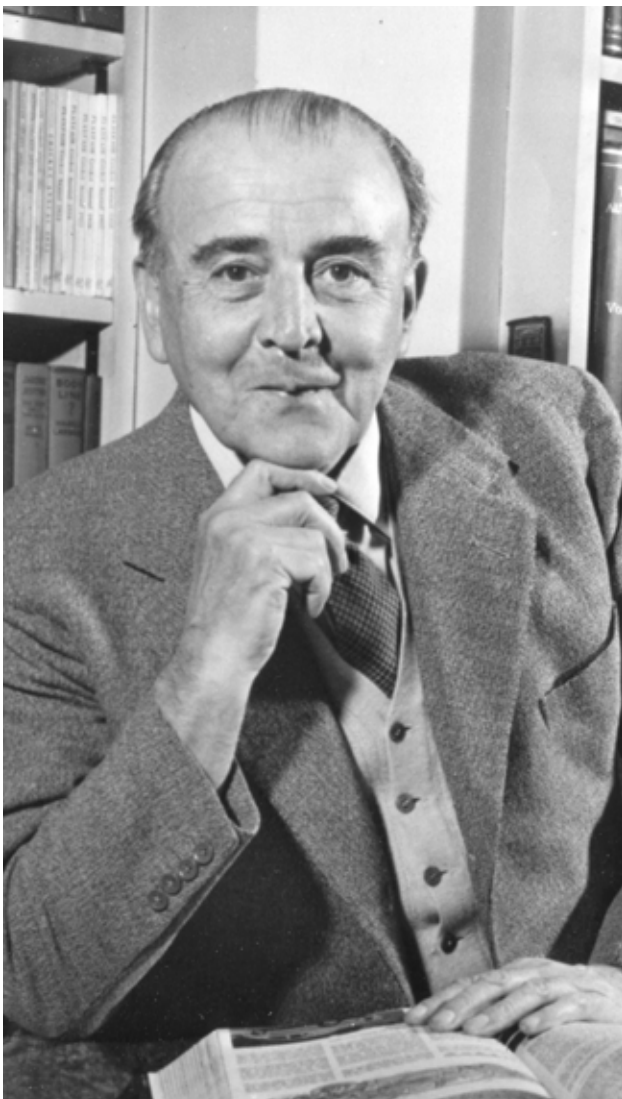
発表・発売日	2018年4月4日 発表
概要	・ オルタネーターとスターターの機能を兼ねた電気モーターの[ISG]と48V電気システムにより、高効率と力強い加速を実現 ・ 従来のV6エンジンに代わり、新開発の直列6気筒エンジンを搭載
車両価格(税込)	S 450：11,470,000円 S 450 エクスクルーシブ：13,630,000円 S 450 ロング：14,730,000円
デリバリー開始時期	—



限定車 メルセデス・ベンツ G 550 designo Magno Edition

発表・発売日	2018年4月4日 発表
概要	・ 現行型G クラスでは最後の特別仕様車 ・ 世界限定463台、日本向けは55台限定 ・ マットカラーの外装色に、マットブラックのアクセントを採用。インテリアもブラックで統一
車両価格(税込)	G 550 designo Magno Edition：17,800,000円
デリバリー開始時期	—

CENTENARY



創業100周年まであと半年余り 各種キャンペーンツールの有効活用を

ベントレー モーターズの創業100周年にあたる2019年まで、あと半年余りとなりました。

ベントレーは強力なブランドであり、それをどう活用するかが、ビジネスを成長させる原動力となります。そのため2018年と2019年は、100周年を祝うためにベントレー ブランドの一層の強化に重点を置くことになります。100周年を祝う期間に将来への関心がさらに高まり、次の100年に向けてベントレーとパートナー、そして何よりもお客様のためにブランドが保持されていくことを目指します。

100周年キャンペーンの目標は、高所得層の見込み客をベントレー ブランドに呼び込み、既存オーナーのロイヤリティを強化し、より多くのクルマを販売し、ブランド価値を構築することにあります。これは、リテラーがお客様とコミュニケーションを取り、ベントレーの世界と私たちが提供する幅広い製品および経験を結び付ける素晴らしい機会

を創出するものです。また、リテラー向けに各地域で成果を生み出してもらうために作られて推進されるキャンペーンでもあります。

100周年に関するあらゆる情報は、Retailer Marketing Newsに設けられた「100 YEARS」タブをクリックして入手できます。ここにはキャンペーンのタイミング、リテラー向けのマーケティングガイドライン、限定モデルやオプションパックに関する情報が含まれています。このセクションの情報は予告なく更新されることがありますので、ベントレー モーターズ ジャパンからも随時ご案内いたします。

ベントレーの新たな時代を築く礎となるキャンペーンを大成功させるため、今後も皆様のご協力をお願いいたします。

■ Retailer Marketing News
<http://retailer.bentley.co.uk/content/dmn/en.html>

※出典：Retailer Marketing News



お客様が求める あらゆることを

ステファン・シーラフが語るマリナーの可能性



ベントレー モーターズのデザイン ディレクターであるステファン・シーラフ氏は、昨年からマリナーの責任者も兼任し、ビスポーク部門でも指揮を執っています。これまでのシーラフ氏の経験やマリナーに対する彼のビジョン、そしてリテーラーがマリナーをお客様に最も効果的に提示できる方法について語りました。

Q. これまでのマリナーでの役割で最も楽しかったことは何でしょうか？

Stefan Sielaff (以降 SS)：以前はセールスとマーケティングの活動には直接携わっていませんでした。しかしながら、このビジネスを成長させるため、お客様が興味・関心を抱いていることや、彼らのご要望に耳を傾けること、そして常に最高のサービスを提供する重要性を学びました。そうして学んだことは、私の新しい役割—特にラグジュアリー プロダクトを売ること—において、とても役立っています。今、私はラグジュアリーカーをデザインするだけでなく、どのように販売し、全てのお客様のご要望に応えるかを学んでいるところです。素晴らしい2つのチーム(マリナー チームおよびデザイン チーム)とこれに取り組むことは、とてもやりがいのある仕事となっています。

Q. シーラフ氏のデザイン哲学はどのようなものですか？また、それをどのようにクルマのデザインに取り入れているのでしょうか？

SS：かれこれカーデザインの仕事に35年携わっていますが、私にとって重要なのは異分野から得るインスピレーションです。例えば建築やファッションデザイン、商品デザイン、家具、さらにはランドスケープデザインなどです。これら全ては私たちのライフスタイル—お客様のライフスタイル—に影響しますし、社会を変えるものです。50年前と同じ姿のものではなく、私たちの習慣も変わり、デザインに対する目も絶えず変化しています。私たちはこれを認識し、全てのクルマのデザインに取り入れたうえで、明日には何が評価され、スピーディーに革新していくかを予想しなければなりません。私はベントレーをより現代的、かつより高度な方向に進化させたい。新型コンチネンタル GTはその第一歩と言えます。



Q. シーラフ氏の、またはベントレーのマリナーの計画にはどんなものがありますか？

SS：高所得層と言われる人たちは、非常に個別のソリューションを求めています。私たちはマリナーの本拠地でより多くの独自のソリューションを提供したいと考えています。ラグジュアリーカーの世界に当てはめると、お客様には2つの選択肢があるのではないのでしょうか。1つは、ハイパースポーツカーをお求めになる方々。もう1つは、ユニークなベントレーのようによりエレガントな真のラグジュアリーをお求めになる方々です。例えば私たちは現在、世界でたった1台のコーチビルドカーの生産に興味のある個人と話していますが、将来はこういった例が増えていくことを期待しています。私たちはまた、わずかに10～20台、または100台程度の限定車を生産したいと考えています。「ワオ！」ファクターがある独自のものを提供することは、ベントレー ブランドを押し上げることにつながるからです。

Q. リテーラーがマリナーとその製品のポートフォリオについて知っておくべき重要なポイントは何でしょうか？

SS：馬具製造や馬車製造から始まり、コーチビルダーになったマリナーには約450年の歴史があります。他のどんなカーブランドもマリナーの伝統と歴史に裏打ちされたセンスには叶いません。これこそがベントレーを真に唯一無二の存在にしているのです。

現在のマリナーには、限定車、ビスポーク、機能、コーチビルディングの4部門があります。お客様はヘッドレストの刺繍をはじめとするシンプルなものから、コーチビルディングのデザインチームと共にクルマを作り上

げることができます。

Q. マリナーはリテーラーの収益増に貢献するでしょうか？もしそうなら、彼らはどのように活用すべきですか？

SS：はい。マリナーは利益を上げる良い機会を提供し、追加の収益を得るための効果的な方法です。マリナーはお客様に対して真にユニークでパーソナライズされたベントレーを所有する機会を提供する偉大なブランドストーリーをもっており、このためリテーラーはベントレーを競合他社と差別化することができるのです。お客様はご自分だけの特別な経験を得られ、ブランドによって価値が評価され、ブランドロイヤリティが生まれるのです。

Q. リテーラーがショールームでマリナーのプロモーションを行うには、どうするのがベストでしょうか？

SS：ペンティガ マリナーや、特徴を紹介するマリナー ムードボードをショールームのパーソナライズエリアに表示すべきです。さらに、マリナーのサンプルはショールーム向けに注文できますし、画像や動画はRetailer Marketing Newsからダウンロードすることができます。動画をショールーム内のスクリーンで再生しておくことも有効でしょう。ショールームのデモカーは、マリナースペックで注文することもできますし、リテーラーごとにビスポークのクルマを作成することもできます。

Q. マリナーではどんなことも可能だと思います。お客様が「夢のベントレー」を作るように促す方法について、リテーラーに向けてアドバイスはありますか？

SS：リテーラーの皆様はお客様のことをよく知っているのです、お客様ごとに感じたことに基づき、販売のスタイルを変えることができますと思います。お客様はブランドのファンであり、ベントレー愛好家です。従って私たちは単にクルマを販売しているわけではありません。それはお客様との関係を構築し、お客様に特別な気分を味わっていただくことです。

お客様の関心事や熱中していることを認識すれば、本当に特別な、本当に個人のためと感じていただけるものを創造する手助けができます。例えば、乗馬が趣味のお客様は、乗馬に関する刺繍などを好まれるかもしれません。特別な誕生日や記念日のためにクルマを購入するお客様は、贈る相手の好みの色のボディカラーにしたいと考えるかもしれませんし、お祝いのためにパーソナライズされたトレッドプレートをご提案す

ることもよいのではないのでしょうか。

リテーラーの皆様には、利用可能なあらゆるマーケティングツールを利用していただき、マリナーが提供するものに精通していただき、お客様がショールームでクルマをご覧になる「ウォークアROUND」の際にパーソナライズのプロセスについてお話いただければ、と思っています。



HISTORY

ル・マンで6度優勝の栄光の歴史 世紀をまたいだ伝説こそベントレーの真髄



今年もル・マン24時間レースの開催が迫ってきました。ベントレーは過去に6度もル・マンを制しており、特に1920年代の栄光は今でも語り継がれています。

ベントレーがル・マンに復帰したのは2001年。68年の時を経てのカムバックは大きな話題となりました。投入したマシンはEXP Speed 8。2002年にはより大きなエンジンを搭載し、テストを兼ねた2002年のル・マンでは4位に入りました。

さらなる改良が施されたEXP Speed 8は、2003年のル・マンで見事に優勝。しかも1・2フィニッシュという最高のフィナーレとなったのです。最後の優勝からは73年が経っていました。20世紀と21世紀と世紀をまたいでの優勝ということもあり、祝勝会は20世紀と同様のスタイルで行われました。

このときにEXP Speed 8を駆って優勝のチェッカーフラッグを受けたのが英国人ドライバーのガイ・スミスです。去る5月20日に英国シルバーストンサーキットで行われたブランパンGTシリーズの耐久カップで、ベントレー・チームMスポーツでの活動にピリオドを打ちました。21世紀の伝説を作ったベントレー・ボーイズの1人が第一線から退くのは残念ですが、スミスは今後もベントレー モータースポーツ ファミリーの一員として、世界中のベントレー カスタマー チームをサポートする役割を担います。

ベントレーは現在、GT系のレースを主戦場としていますが、今後もベントレーのモータースポーツに大きなご声援をお願いいたします。

COLLECTION

レース観戦に最適なグッズが勢揃い モータースポーツ コレクション発売中



ベントレー モーターズはこのほど、ベントレー コレクションにモータースポーツに関するグッズを揃えた「モータースポーツ コレクション」を新たに加えました。

バッグやキーリング、マグカップなどに加え、アパレル商品も充実。いずれの商品にもコンチネンタルGT3のロゴやスポンサーロゴが入ったポロシャツやキャップは、レース観戦にもぴったりです。今年はSUPER GTでElcars BentleyがGT300にフル参戦しており、コンチネンタルGT3（初代）が疾走する勇姿を日本各地で目にすることができます。

ベントレーファンのお客様にモータースポーツ コレクションをご紹介します。コンチネンタルGT3グッズを身に着けてご声援くださるよう積極的にお勧めください。



HOME

家具の展示会にベントレー ホームが出展 コンチネンタルGTの内装をイメージした デザインを紹介



ベントレー モーターズはこのほど、イタリア・ミラノで開催された家具などの国際展示会「Salone Internazionale del Mobile 2018」に出展し、バクストンキッチンやバンプトンソファなどを展示しました。これらをデザインしたのはインダストリアルデザイナーのカルロ・コロンボ氏で、ベントレーホームとして新しいキッチンを提案。最高品質の素材と洗練された仕上げによる卓越性は、英国のラグジュアリーカーメーカーのDNAを反映しています。また、収納ユニットはカラマツ製のウッドパネルで製作しつつ、前面のドアにはスモークのクリスタルカットガラスを採用。このコントラストを強調しているところに、ベントレーの伝統と現代技術の融合という姿勢が表現されています。

このほか、ソファの模様やディテールは新型コンチネンタルGTのインテリアからインスピレーションを受けてデザインされています。



電動化時代の電気の基礎知識

環境対策などを理由にクルマの電動化の流れは決定的なものとなってきました。そんなとき必要なのが電気の基礎的な知識です。

ここではクルマの電動化を理解し、今後予定されているベンティガ ハイブリッドの導入をスムーズに進める上で、知っておきたい電気の基礎知識を振り返ってみます。



⚡ ACとDC

電気には流れ方の異なるAC（交流）とDC（直流）の2種類が存在します。身近なものでいえば、電池はDC（直流）であり、家庭用のコンセントなどで供給される電気は交流（AC）です。クルマに使われる12Vの鉛電池はDC（直流）です。そしてハイブリッドやEV、プラグイン・ハイブリッドに利用される二次電池もDC（直流）の電池となります。プラグイン・ハイブリッドに充電するときは、家庭用の200V電源ならばAC（交流）ですが、急速充電のときはDC（直流）が使われています。

AC = 交流

DC = 直流

⚡ 電力と馬力

近年、エンジンの出力をPS（馬力）ではなくW（ワット）で表示することが増えています。これは国際的な基本の単位で、1秒あたりのエネルギー（仕事）を表すもの。1Wは0.00136PS、1kWは1.36PSに相当します。また、1PSは0.7354kWとなります。呼び方は、エネルギーを表す場合は「仕事率」、電氣的には「電力」です。「電力」はA（電流）とV（電圧）の積算で求めることができます。

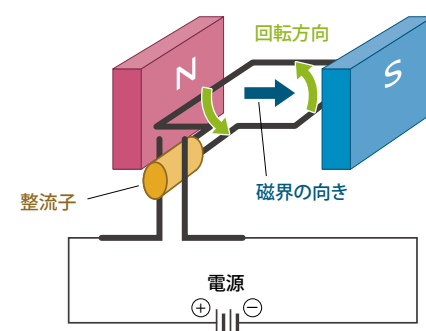
1W（ワット）= 0.00136PS（馬力）

1PS = 735.4W = 0.7354kW（キロワット）

W（ワット／電力）= A（電流）× V（電圧）

⚡ モーターの種類

モーターが回る基本的な仕組みは、内側と外側のふたつの磁界による反発・吸引の力を利用するというものです。下の図は最も基本的な2極のブラシ付きDC（直流）モーターです。内側にある配線に電流を流すと、その周りに磁界が発生します。それに対して、外側にある永久磁石の磁界が反発・吸引することで回転運動が生まれます。内側の配線をコイルにして、より濃密に巻くほど磁界が強くなり、強い回転が生まれます。同様に外側の永久磁石が強いほど回転力が強まります。内側に永久磁石、外側にコイルを置くとブラシレスのDC（直流）モーターになります。他に、AC（交流）を使うAC（交流）モーターがあり、その中には永久磁石を使わないインダクションモーターも存在します。



内側の配線に電流が流れることで磁界が発生して、外側の永久磁石との反発・吸引力が回転力となる。

⚡ 電池の容量と電力量

クルマの電動化に大きく影響を与えるのが二次電池の性能です。電池の容量を表す単位として、12V鉛電池などによく使われるのが「Ah（アンペアアワー）」という単位です。これは1時間に、どれだけのA（電流）を流せるかというものです。10Ahであれば、10Aの電流を1時間流せることを意味します。ところが、この単位には電圧が抜けています。そこで、クルマの二次電池などでは、どれだけのエネルギー＝電力が蓄えられているのかを表す「Wh（ワットアワー／電力量）」が使われることが主流です。たとえば24kWhであれば24kWのエネルギーを1時間出し続けることが可能という意味になります。電力が半分の12kWになれば、出し続けることのできるのは2時間となります。

Ah（アンペアアワー）= A（電流）× h（時間）

Wh（ワットアワー／電力量）= W（電力）× h（時間）

⚡ コンバーターとインバーター

電動車両ならではの制御装置がコンバーターとインバーターです。電動化車両では電流を直流から交流に変換したり、電圧を上げ下げする必要があります。そこでコンバーターとインバーターが活躍します。広く電力を変換させるものをコンバーターと呼び、直流から交流に変換するものをインバーターと呼びます。DCACインバーター（直流から交流へ変換）や、DCDCコンバーター（直流のまま電圧を変化させる）などがあります。



電力を制御するための装置は、クルマに搭載するための信頼性だけでなく、小型化や高効率化が求められている。



モーターを内蔵したハイブリッド用のオートマチックトランスミッション。コイルの見える部分がモーターだ。